

ENTERTAINMENT
EB
BUSINESS

Factor "E" の発想から
新たなビジネスを創造するための
経営情報誌

エンターテインメントビジネス

no 10

2005 autumn

月刊レジャー産業資料
10月号別冊

www.sogo-unicom.co.jp



E+ Attraction Report 

東京ドームシティアトラクションズ
「ヴィーナスラグーン」



東京ドームシティ アトラクションズ

「ヴィーナスラグーン」

ラクーア全体の景観に調和した
“観るだけでも楽しい”
メリーゴーランド

(株)東京ドームは2005年7月9日、東京・文京区で運営する「東京ドームシティ アトラクションズ」(旧名:後樂園ゆうえんち)に、水上メリーゴーランド「ヴィーナスラグーン」をオープンした。

“環礁に囲まれた海面(ラグーン)に女神(ヴィーナス)がたずむ姿”をイメージしたというヴィーナスラグーンは、ラクーア内のウォーターズライダー「ワンダードロップ」の人工池上に開設。「回転木馬」という和名が表わすように、メリーゴーランドのライドは通常「馬」だが、ヴィーナスラグーンはライオン



やシマウマなどさまざまな動物で構成し、“観るだけでも楽しい”アトラクションとして展開。夜間は、幻想的なライトアップにより“ファンタスティックな夜”を提供している。

1955年7月9日に都市型遊園地の先駆けとして開業した「後樂園ゆんえんち」は03年、融合商業施設「ラクーア」のオープンに合わせ、入園料を無料とするフリーゲート制を導入するとともに、現在の施設名に改称した。

今回のヴィーナ斯拉グーンは、開業50周年を機に開設されたもので、ラクーアのオープン時に、ワンダードロップやセ

ンターレス観覧車「ビッグ・オー」、ジェットコースター「サンダードルフィン」、ホラーハウス「ザ・13ドアーズ」、音楽噴水「ウォーターシンフォニー」の5つのアトラクションが開設されて以降、ラクーアへの初の新規アトラクション導入となる。

製作したBarrango社は、アメリカ・カリフォルニア州サンフランシスコに本社を置くメーカー。マネキンメーカーとしてスタートし、来年で創業100周年を迎える老舗で、現在は主としてクリスマス装飾やカルーセルのメーカーとして安定した業績を重ねている。





ウマについてのジュエルはオーストリアからわざわざ買い付けている。通常はこれらを半割りにして貼り付けるが、Barrango社では手間をかけて埋め込み、年数が経っても剥がれ落ちたりせず、長年使えるようにしている



ミストでスクリーンを作成。LEDでライティングすることでメリーゴーランドが浮いたように見える

ウマの種類が豊富で、ペイントだけで同じ形のウマを異なって見せるというのではなく、各々の馬体形状が異なっており、見る人を飽きさせない。馬以外にもライオン、象、キリン、ダチョウ、ゴリラ、パンダ、豚、など多種多様な動物のモールド(型)を持っており、米国では最近動物園への販売実績が伸びている。ウィーナスラグーンは馬19頭、その他の動物13頭で構成



ウマだけでなく、バラベットや中央塔体部の装飾にも十分な手間がかけられており、立体感のあるカービングが施され、ミラー装飾にはステンレスではなく本物の鏡が使用されている。天井部分においてもフラットなパネルをはるのではなく、曲線で柔らかさをもった仕上がりがりとなっており、いたるところにこだわりを持ったつくりとなっている



ウマを上下させる機構である上部クランクには、一本のバーを曲げ加工されたものが使用されており、年数が経っても上下動作はスムーズで、メンテナンスにも手間がかからない



東京ドーム
アミューズメント部長
内山信雄氏

ラクーアの雰囲気を崩さず、
ラクーアゾーンに
ファミリーを呼び込むアトラクションとして
「ヴィーナ斯拉グーン」を導入しました

ラクーアのゾーンにはこれまで、ファミリーで楽しめるアトラクションがセンターレス観覧車「ビッグ・オー」くらいしかありませんでしたので、ファミリーをメインターゲットにしたアトラクションを何か追加したいと考えていました。ただ、ラクーアは“都市公園の新しい姿”として、夜間の照明など景観を重視した施設づくりをしています。新アトラクションを設置するウォーターライダー「ワンダードロップ」の水路の隣にはステージもありますので、ラクーア全体の雰囲気を壊さず、音もあまり大きな駆動音などを出さないもので、しかも幼児でも利用できるものということから、カールセル(メリーゴーランド)にすることにしました。

しかし、東京ドームシティ アトラクションズにはすでに、タワーランドにカールセルがあり、同じものをつくっても仕方ありません。2台目なら少し何か変わったものにしようと考えていたところ、阪和興業さんからBarrango社の提案がありました。“回転木馬”だからといって何も「馬」にこだわることはありません。Barrango社は、馬以外にも多種多様な動物のモールド(型)を持っているということでしたので、そのほうが、既存のカールセルとも差別化ができ、お客様にも喜ばれるのではないかと考え、今回の「ヴィーナ斯拉グーン」の設置となりました。

遊園地としてのバランスを考えたとき、いつも「キャーッ」と大騒ぎするスリルライドばかりではなく、親子4人でのんびりくつろげる機種もないといけないと思います。昔で言う「豆



汽車」や「ティーカップ」などといったキッズ向けアトラクションは、やはり遊園地とは切っても切り離せないもので、その意味からもヴィーナ斯拉グーンにファミリーが集まれば、ワンダードロップなどラクーアゾーンの他のアトラクションのファミリー客の利用率の上昇も期待できます。今後も機種構成の見直しなどにおいては、スリルライドだけではなく、ファミリーが楽しめる機種も採り入れていきたいと考えています。

ヴィーナ斯拉グーンは、それほど大きなアトラクションではありませんでしたが、水路の上に人工地盤を造って設置する。しかも営業を続けたまま工事しなければならないということで、阪和興業さんもお苦労されたことと思いますが、開業50周年の時期でしたので、7月9日にオープンを合わせようとして頑張っていたいただきました。阪和興業さんには、ラクーアゾーンでは、ウォーターライダー「ワンダードロップ」やホラーハウス「ザ・13ドアーズ」、音楽噴水「ウォーターシンフォニー」を手がけていただいていたので、ラクーア全体の景観との調和も図れたと思います。



阪和興業(株)
機械部 レジャー施設課
課長
荒木和成氏

すでに完成された
空間演出ができていたので、
その中に入れて違和感のないものとする
心がけました

今回のヴィーナ斯拉グーンにつきましては、すでに完成された空間演出ができていたので、その中に入れて違和感のない大きさ、色、形のものにならなければなりません。しかも、水路の上に人工地盤を設けて「後付け」で設置するということでしたので、あまり大きくするわけにはいかず、といて小さすぎると一度にお乗りいただける人数が少なくなってしまう。その意味で、最も難しかったのはメリーゴーランドの直径を決めることでした。

Barrango社のメリーゴーランドは、「ウマ」自体はこれまでも入っているケースもありますが、メリーゴーランド全体が入ったのは、日本では今回がはじめてです。

Barrango社の作るウマのクオリティは非常に高く、またバラベットのカービングなどは絵ではなく彫り込みで、浮き出して凹凸を作っています。象の鼻でも、きちんと形を出している。他のメーカーのウマと比べると立体感が全然違います。

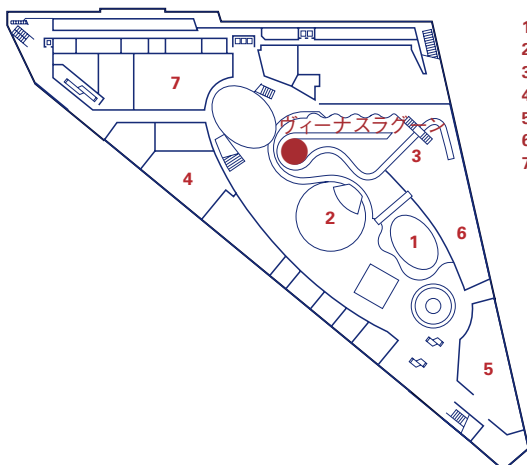
さらにウマには“宝石”がたくさん付けてあ

りますが、これもわざわざオーストリアから取り寄せています。しかも、通常は接着剤などで貼り付けるだけで、宝石が取れてしまう場合がありますが、Barrango社の場合、FRPの中に埋め込んだ形で取り付けられています。このような形で作るのは手間がかかりますが、長期的に良好な状態を維持できます。

今回のヴィーナ斯拉グーンでは32頭のうち、13頭はウマ以外の動物が採用され非常にユニークなものになっています。動物の種類の豊富さ、ダイナミックな動きが感じられる形と大きさ、細筆を使った微細なペイント仕上げなど、最高レベルのクオリティが実現されています。

また、ウマを上下に動かすクランクですが、Barrango社では曲げ加工したパイプを使用しますので、ウマの動きは長期にわたって非常にスムーズで、かつクランク部分のメンテナンスに手間がかかりません。Barrango社の製品は、機械構造上の問題、デコレーション上の問題、その辺が新品の状態がずっと続くというような考え方でつくられているのです。

ラクアアの景観との調和ということでは、ミストでスクリーンをつくり、LEDでライティングして色を付けることで、メリーゴーランドが浮いたように見えるようにして幻想的な空間を創出し、ラクアア全体がもつ雰囲気と溶け込み、かつ新たな空間をつくることを心がけました。



- 1 ウォーターシンフォニー
- 2 ラクアアガーデンステージ
- 3 ワンダードロップ
- 4 ザ・13ドアーズ
- 5 あんぱらんす
- 6 パパ・ガンブ・シュリンプ東京
- 7 成城石井

施設概要

◆座席

- 席数/30×ジャンピングホース&アニマル(各1名)、2×シャリオット(各大人2名、または子供4名)、2×スタンディングアニマル(各1名)
- 最大乗車定員/大人36名(子供シャリオット乗車の場合40名)

◆設置面積

- 本体最大部直径/11.58m(屋根部)
- デッキ部直径/9.90m(デッキ部)
- セグメント数/12
- センターシャフト高さ/4.87m
- ステップ高さ/30.5cm

◆動作仕様

- 回転方向/反時計回り
- 回転速度/4.5RPM

◆電気容量

- 電気容量/合計100AMP 200~220VAC 60Hz三相3線(モータ7.5HPインバータ付き。電飾110V白熱球)

◆装飾仕様

デラックスデンツェルインナーシナリー、スパイラルプラスアニマルポールスリーブ、スパイラルプラスフロアロッドスリーブ、シミュレートッドオークファイバークラスフロア、可変ドライブシステム、ハンドペイント仕上げ、デラックスアニマル

◆製作

阪和興業(株)



阪和興業株式会社

機械部

レジヤ施設第一課

〒541-8585

大阪市中央区伏見町四丁目3番9号

TEL.06-7525-5142

FAX.06-7525-5302

レジヤ施設第二課

〒104-8429

東京都中央区築地一丁目13番1号

TEL.03-3544-1908

FAX.03-3544-2252

<http://www.hanwa.co.jp/>